

拮抗・大接戦！ 緊急支援を

- ①今すぐ大阪市にお住まいの知人、友人に、電話やネットで「反対」の投票を呼び掛けてください。
- ②SNS の拡散にご協力ください。
- ③最終盤の宣伝物発行を支える募金にご協力ください。
- ④可能な方は大阪市内に駆け付けてください。

20近畿ブロック事務所ニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中・部内資料】

No. 62 (2020. 10.29)

衆院比例候補が支援

こむら候補「市残してこそ」と熱く 西成区

こむら潤候補は、29日西成区に入り、天下茶屋駅前などで訴えました。「特別区設置のシミュレーションでは、子育てプラザや老人福祉センター、スポーツセンターなどの削減を見込んでいます。市独自の子ども医療助成なども維持できなくなります。大阪市廃止でなく、市を残してこそコロナ対策はじめ福祉が充実できます」と反対を呼びかけました。訴えに、自転車から降りて「頑張れよ」とエールを送る人や、「今から期日前投票に行くんや」と声をかけていく人など力強い反応がありました



宣伝では「迷ってる」「よう分からん」という人とも対話になり、「一度決まれば元には戻せません。分からないなら『待った』の意味でも反対を」というと反対を約束してくれました。こむら候補は「逆に励まされました。最後まで対話、お知らせをして説明を尽くすことが大事だと感じました」と話しています。

たけやま・西田両候補が揃って訴え 生野区

29日、生野区北巽地域に、たけやま彩子候補（写真右）が京都から乙訓地区の13人の宣伝隊とともに応援に。地元の西田さえ子候補（生野天王寺地区常任委員）とともにスポット宣伝。午前中、維新の府議が地域訪問し、宣伝カーでも「賛成を」と連呼する激しい様相です。

たけやま候補が「4つの特別区にすれば、行政コストが218億円も増える」「女性の願い実現は大阪市でこそ」と訴えると、通りがかった女性から「今投票に行ってきましたよ。もちろん『反対』です」と声がかかり、新聞配達中の男性が「なぜ反対ですか」と質問すると西田候補が、Q&Aが載ったピラを渡して説明しました。



たけやま候補は、「最終盤追い上げ、面白い状況になってきていると実感できた。また、『どっちの言うことも筋が通っているようで、分からんわ』という人も多く、最後まで情報提供型で対話を広げることが大事だと思った」と語っています。

旧友に電話で「反対」呼びかけ、日曜版も拡大 神戸市・兵庫長田北地区

神戸市兵庫区のBさんは、大阪市内に住んでいる同郷のCさんに電話し、「大阪で住民投票をしているけど、どう思っているの」と聞きました。すると「私は絶対反対。家族全員も反対、元職場の人も、現職の人たちもみんな反対と言っている」と対話が弾みました。Bさんは最後に「『しんぶん赤旗』を呼んだことがありますか」と尋ねると、Cさんは「B君は共産党の活動をしているの？」と逆に尋ねられ、「現職の時から頑張ってきた」と答えました。Cさんは「実は私も昔、職場の人に勧められて読んでいたことがある。B君が勧めてくれるなら、また読んでもいいよ」と返事をしてくれました。

Bさんは「古い友人だけど電話してホントに良かった」と旧友との対話、「赤旗」購読にうれしさもひとしおでした。（兵庫県委員会のニュースより）